Section

5

価値創造の源泉となる経営資本

32 フラッシュメモリ生産規模

36 テクノロジー

40 パートナーシップ

43 人材

フラッシュメモリ生産規模（製造資本）

最先端のフラッシュメモリ工場で実現するスケールとコスト競争力



特 徴

設備投資額
（2025年度）
2,837億円

フラッシュメモリ生産量世界シェア（2025年度）
（記憶容量ベース、Sandiskグループとの製造合弁会社分を含む）
28%
出典：TechInsights Inc
「NAND Market Report Q1 2026」

四日市工場、北上工場の統合生産体制でパフォーマンスを最大化するスマートファクトリー

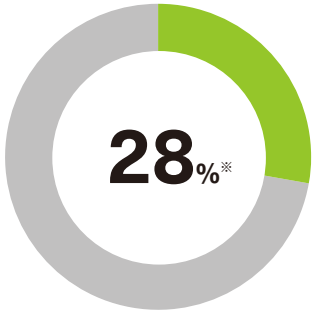
規律ある設備投資と世界最大級のフラッシュメモリ生産規模を活用した高いコスト競争力

世界最大級のフラッシュメモリ生産規模

四日市工場・北上工場を合わせたフラッシュメモリの生産量（記憶容量ベース）は、キオクシアグループと、米国Sandiskグループとの製造合弁会社分を合わせて、世界最大級となる28%※に上ります。

四日市工場では2022年10月から第7製造棟が稼働、北上工場では2025年9月に第2製造棟が稼働を開始しており、今後も拡大すると想定されるフラッシュメモリの需要に継続的に対応します。

フラッシュメモリ生産量世界シェア
（記憶容量ベース、2025年度）



※出典：TechInsights Inc.「NAND Market Report Q1 2026」

生産規模・生産効率に基づくコスト競争力

当社グループは、AIとビッグデータを活用したスマートファクトリーで四日市工場と北上工場が連携し、高い生産効率を実現しています。高いコスト競争力で拡大するフラッシュメモリ需要に対応し、当社グループの持続的な成長を支えています。

世界最大級の生産規模 × **高い生産効率** → **高いコスト競争力**

ジョイントベンチャーを牽引する製造リーダーシップ

四日市工場・北上工場合計の生産能力の約80%は製造合弁会社分として米国Sandiskグループと等分で共有しており、残りの約20%は当社グループが単独で保有しています。したがって、両工場で生産されるフラッシュメモリの約60%が当社グループに割り当てられます。また、当社グループは両工場の管理・運営を行っており、高度な製造ノウハウを有しています。

フラッシュメモリ生産規模

生産スケールを実現する仕組みと技術

フラッシュメモリの製造工程は、シリコンウエハー上に回路を作り込む前工程と、ウエハーをごく小さなチップに切り出して積層し、パッケージ化する後工程に大きく分かれます。AIの急速な普及でフラッシュメモリの大容量化へのニーズが高まる中、当社グループは前工程の進化による「チップ1枚当たりの大容量化」と、後工程の進化による「パッケージ1個当たりの大容量化」の両面からアプローチし、ニーズに応えます。

スマートファクトリー

AIとビッグデータを駆使した生産規模の向上、高効率化

工場では製造装置や検査・計測装置から日々膨大な製造関連データが発生し、四日市工場ではその件数は約30億件にも上ります。これらのデータをリアルタイムでAIを活用して分析し、製品不具合の防止や、不良が発生した際の原因の自動推定などに活用しています。

四日市工場で1日に生成される製造関連データ量

工場が拡張し、扱うデータ量も飛躍的に増大する中で、歩留まりの維持・向上に取り組んでいます。

2019年まで 約20億件/日	→	2025年 約30億件/日
第6製造棟まで稼働		第7製造棟まで稼働

四日市工場と北上工場が高度に連携する「デジタルツイン」

両工場の製造装置やシステムから取得したデータを仮想空間にリアルタイムに再現し、膨大なデータをもとに最適化された条件を両工場の製造プロセスに適用する「デジタルツイン」を活用して、両工場でノウハウの共有を効果的に進め、高い生産性を実現しています。

2020年からフラッシュメモリ製品の量産を開始している北上工場の迅速な立ち上げに成功し、従来よりもスムーズに高歩留まりを実現しています。直近では第10世代BiCS FLASH™製品の製造ラインを北上工場で垂直立ち上げ、2026年7月にサンプル出荷するに至りました。

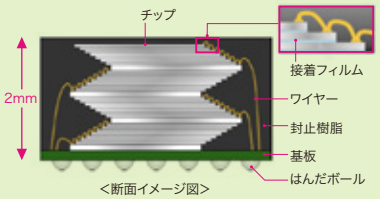


組立工程（後工程）技術の高度化

当社グループは、半導体・SSDの組立工程の大半を海外の専業メーカーに製造委託することで生産効率を高めており、また、サプライチェーンの強化にも取り組んでいます。一方で、四日市工場においても先端製品を中心に組立技術の開発、高度化に注力しています。

TOPICS　高さ2mmのパッケージにメモリチップ32枚を積層する高度な組立技術

キオクシア（株）は、高さ2mmにも満たないパッケージに、32枚の2Tb（テラビット）メモリチップを積層し、8TB（テラバイト）の大容量フラッシュメモリの開発に成功しました。ウエハーを0.8mmの厚さから30～40μmの薄さまで研削加工する技術、100μm以下の薄厚部や狭小部を、高精度に制御、形成可能とするパッケージ樹脂の開発技術、重ねたチップと基板を電気的に接続するワイヤボンディング技術など、さまざまな工程で高度な技術を織り込んで最適化し、フラッシュメモリの大容量化を支えています。



<断面イメージ図>

フラッシュメモリ生産規模

四日市工場　（三重県四日市市）

四日市工場は1992年の設立以来、最先端のメモリ製品製造拠点として発展してきました。694,000m^{2}の広大な敷地に6つの前工程の製造棟と1つの後工程（組立工程）の製造棟があります。2022年10月から第7製造棟が稼働しています。6つの製造棟を統合する生産体制や、AIとビッグデータの活用により、生産効率を高めています。また、併設する研究・技術開発部門との緊密な連携で、新製品の開発から量産へのスムーズな移行を実現しています。



メッセージ　キオクシア（株）　四日市工場長　**清水 和裕**



四日市工場は開発と量産を担う世界最大級のフラッシュメモリ工場として、またAIやビッグデータを駆使して高い生産効率を実現するスマートファクトリーとして、生産規模と品質を両立します。私たちは優れた産業基盤を持つ地域に根差す企業市民として、社会貢献や環境保全にも取り組み、持続的な社会の発展に貢献します。

北上工場　（岩手県北上市）

北上工場はフラッシュメモリの需要拡大に対応するための量産拠点として、第1製造棟が2020年に、第2製造棟が2025年9月に稼働開始しました。今後も、需要の拡大に合わせて生産規模を拡大する予定です。量産に特化しており、歩留まりや生産性を高めています。四日市工場とデジタル技術を活用して連携し、そのノウハウを継承して高品質な製品を高い効率で生産することに貢献します。

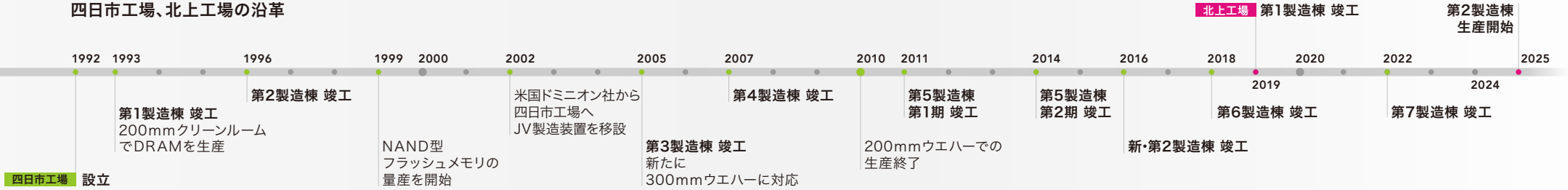


メッセージ　キオクシア岩手（株）　代表取締役社長　**柴山 耕一郎**



北上工場は当社グループのさらなる生産力向上に貢献すべく、市場の伸長に合わせて生産規模の拡大を進めます。今年7月に当工場の第2製造棟で直接製造ラインを立ち上げ、第10世代BiCS FLASH™の生産を開始しました。今後も拡大・成長を続け、地域経済、地域社会の発展に貢献し、お客様からも地域からも信頼される会社であり続けます。

四日市工場、北上工場の沿革



フラッシュメモリ生産規模

持続的な生産活動のための課題と対策

事業継続のための備え

メモリ製品を社会に提供する事業を行うキオクシアグループにとって、製造拠点は事業継続の要です。四日市工場、北上工場の国内2拠点において、BCM体制（▶ P.56）のもとに工場の防災対策や有事の際の対応、早期復旧の体制づくりを推進しています。

例えば、地震対策としては、建物の揺れを吸収する免震構造を採用しています※。また、停電や瞬間的な電力低下（瞬低）からの重要設備保護のための装置を設置しています。

さらに、自然災害や地政学リスクなどを考慮し、調達取引先の複線化や部品の共通化・点数削減などによる強靭なサプライチェーンの構築に取り組んでいます。

※ 四日市工場においては2007年9月に竣工した第4製造棟以降、北上工場においては第1・第2製造棟共に採用。



工場の免震装置

環境配慮の取り組み

キオクシアグループは、気候変動対策や廃棄物削減・化学物質管理・排水の水質管理など、環境に配慮した持続可能な事業活動を推進しています。

気候変動対策

当社グループの製造拠点では、温室効果ガス排出量の削減や再生可能エネルギーの活用を推進し、脱炭素社会の実現に貢献します。2050年度までに、事業活動に伴う温室効果ガス排出量※1をネットゼロ（温室効果ガスの排出量から吸収・除去量を差し引き、実質ゼロにすること）とする目標を設定し、ソーラーパネル設置など、再生可能エネルギーの活用を拡大していきます。また、ウエハー製造工程では、温暖化係数が高いPFC等ガス※2を分解して排出する除害装置を、すべての対象設備に設置しています。



四日市工場 新・第2製造棟に
設置した太陽光発電システム

※1 事業場からの直接排出（Scope1）および購入エネルギー使用に起因する排出（Scope2）
※2 半導体製造時に使用する、地球温暖化係数の高いガスです。当社グループでは、CF_4、C_4F_8、CHF_3、SF_6、NF_3、CH_2F_2、CH_3F、CH_4、N_2O、CO_2を対象としています。

水資源の有効活用

当社グループでは、製造拠点における取水量と排水量の抑制やリサイクルに取り組み、事業継続と水資源の保護のため、法規制より厳しい自主基準を設け、環境負荷低減や水のリサイクルに努めています。また、世界資源研究所や世界自然保護基金の専門ツールを用いて、国内外の製造拠点における2040年までの水関連リスクを評価し、事業に与える影響の把握に努めています。なお、製造拠点における2040年までの水需要・水災・水質汚濁リスクを調査した結果、実質的な財務・戦略への影響を及ぼす水リスクは確認されませんでした。

資源循環

当社グループでは、製造工程における資源の有効活用と廃棄物の削減を重要課題と捉え、効率的な生産と環境負荷低減の両立を推進しています。例えば、日々発生する廃棄物の分別・再資源化を徹底して資源循環の向上に取り組み、特にプラスチック製品廃棄物については、90%以上の高いリサイクル率を維持しています。また、ウエハーや製品・半製品の輸送に使用する包装材の再利用や省資源化を進め、CO_2排出量削減につなげています。

自然資本・生物多様性

当社グループは、生物多様性が持続可能な社会の基盤であり、気候変動や資源制約といった地球規模の課題に対応する上で極めて重要な資本であると認識し、生物多様性保全活動を推進しています。自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）提言に基づくリスクと機会の分析、シナリオ評価、指標・目標の検討、モニタリングを行い、自然と共生する持続可能な事業基盤の構築に向けた検討を進めています。2024年度から2025年度にかけては、キオクシア（株）の直接操業に焦点を当て、LEAPアプローチ※に沿った取り組みを進めました。「Locate」において生態学的に影響を受けやすい地域を特定、「Evaluate」において自然資本への依存とインパクトを整理・評価し、現在は「Assess」において、これらが当社の事業に及ぼすリスクと機会の整理を進めています。

※ 自然との接点、自然との依存関係、インパクト、リスク、機会など、自然関連課題の評価のための統合的なアプローチ

当社グループの環境への取り組みについて、詳しくはウェブサイトをご覧ください。 環境
サステナビリティマネジメント ▶ P.57

テクノロジー（知的資本）

先進的なメモリ技術でAI社会を支える



特 徴

研究開発費

1,411 億円

（2025年度）

登録特許数

約15,000 件

（2025年12月時点、キオクシア（株））

NAND型フラッシュメモリの発明をはじめとした数多くの「世界初」を創出

「記憶」のテクノロジーリーダーとして高度で多様な研究・技術開発を推進



キオクシア株式会社
常務執行役員
技術統括責任者

宮島 秀史

AI時代の価値創造を支える「記憶」の技術を追求する

AIの急速な進化により、社会や産業の在り方は大きく変わりつつあります。今やフラッシュメモリやSSDストレージは単なるデータ保存媒体ではなく、AIシステム全体の性能や効率を左右する重要な技術基盤の一つとなっています。キオクシアグループは、「記憶」のイノベーションを通じてこの変革を支え、新たな価値創造に貢献していきます。

当社グループは、NAND型フラッシュメモリを発明し、さらに世界に先駆けて3次元フラッシュメモリ「BiCS FLASH™」の基本構造を提案するなど、常に時代の変化を見据えて技術革新を続けてきました。現在は、「BiCS FLASH™」のさらなる大容量化、高性能化、低消費電力化に加え、将来のAI市場を見据えた次世代メモリ、ストレージシステム、ソフトウェア、および高密度パッケージング技術の開発にも注力しています。

一方で、半導体技術の開発難易度はますます高くなっています。当社グループがテクノロジーリーダーシップを発揮し続けるためには、研究開発投資に加えて、人材、知的財産、パートナーシップといった技術基盤の強化が不可欠です。当社グループは、研究所、開発センター、事業部が密接に連携する体制のもと、AIやDXの活用による開発効率向上に取り組むほか、社外のパートナーとの協創を通じて新たな知見を取り込み、イノベーションを創出し続ける開発基盤づくりを進めています。

当社グループの技術競争力の源泉は人材です。変化の激しい時代においても新たな発想で課題に挑戦し、価値を生み出す人材を育成するため、技術教育や人材交流の強化を進めています。例えば、研究開発人材の育成強化に向け、「キオクシアカレッジ（仮称）」の設立を計画しています。多様な専門性を持つ人材が互いに刺激し合いながら成長できる環境を整え、世界最高レベルの技術集団を目指します。

当社グループはこれからも、革新的な技術で新たな常識を生み出し続けるテクノロジーリーダーとして、「記憶」の可能性を広げ、AI社会の発展を支える新たな価値創出に挑戦し続けます。

テクノロジー

研究・技術開発の強みと方針

研究・技術開発方針:「記憶」の技術を軸にテクノロジーリーダーシップを堅持する

キオクシアグループは、NAND型フラッシュメモリの発明をはじめとする多くの「世界初」を積み重ね、社会にイノベーションを生み出すことに貢献してきました。研究開発投資、人材採用・育成、パートナー連携に注力し、培ってきた「記憶」の技術を軸に、AIの発展で高度化、多様化する市場ニーズを捉えてテクノロジーリーダーシップを堅持します。

(1) 持続的・戦略的な研究開発投資

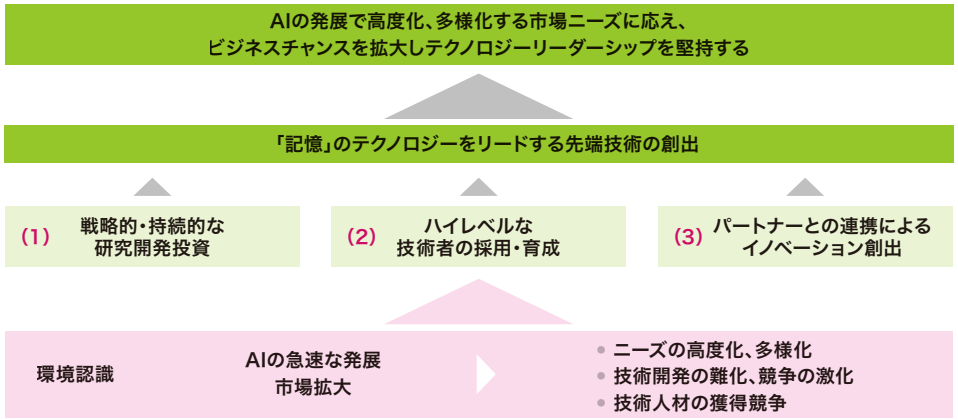
BiCS FLASH™のさらなる進化、次世代の新規メモリデバイスやストレージシステムの開発といった、成長分野に注力した研究開発投資を継続します。

(2) ハイレベルな技術者の採用・育成

最先端の技術開発を担う専門性の高い技術人材を獲得し、育成します。ハイレベルな人材が活躍できる体制・仕組みをつくり、高度化・多様化する市場ニーズに応えます。

(3) パートナーとの連携によるイノベーション創出

顧客やさまざまな分野の研究開発パートナーと連携し、オープンイノベーションを通じて新たなアイデアやイノベーションを生み出し、共に社会に価値を提供します。

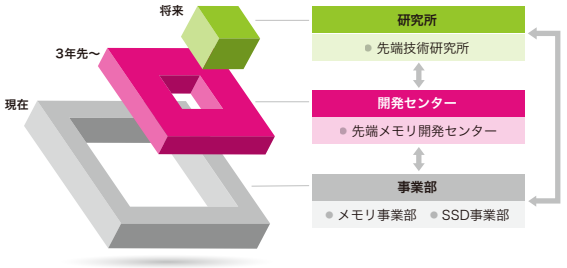


メモリ技術をリードする研究・技術開発体制

研究を製品に結実する研究開発体制

キオクシアグループは「記憶」の技術で業界をリードする研究・技術開発体制を構築しています。長期的視点で将来技術を研究する研究所、製品への適用技術を開発する開発センター、製品を開発する事業部が連携した研究・技術開発体制で、「研究」を「製品」に結実します。

キオクシアグループの研究・技術開発体制



先端技術研究所	AI技術とその応用を支える技術、新原理や新材料を駆使した大容量高速メモリシステム技術、半導体メモリを低コストで製造するための新規プロセス技術などの研究開発を推進します。
先端メモリ開発センター	3次元フラッシュメモリ「BiCS FLASH™」の研究開発と量産化の橋渡しを担います。
メモリ事業部・SSD事業部	高度化、多様化するニーズに対応するメモリ・SSD製品の企画、開発、マーケティングを担います。

先端研究を推進する研究・技術開発拠点

キオクシア(株)の主な国内研究・技術開発拠点は、横浜テクノロジーキャンパス(横浜市栄区)や四日市工場にあるメモリ開発センター(三重県四日市市)です。

また、海外の研究・技術開発の拠点は、先端技術へ迅速にアクセスし、市場・顧客ニーズに柔軟に対応するため、先進的なIT企業が数多く所在する国・地域にあります。

AIを活用した研究開発

当社グループでは、製品開発における製造データの分析、プロセス条件の最適化、工場での異常検知および予知保全、画像認識による欠陥検査、歩留まり解析と不良要因の特定などでAIを活用しています。

スマートファクトリー ▶P.33

テクノロジー

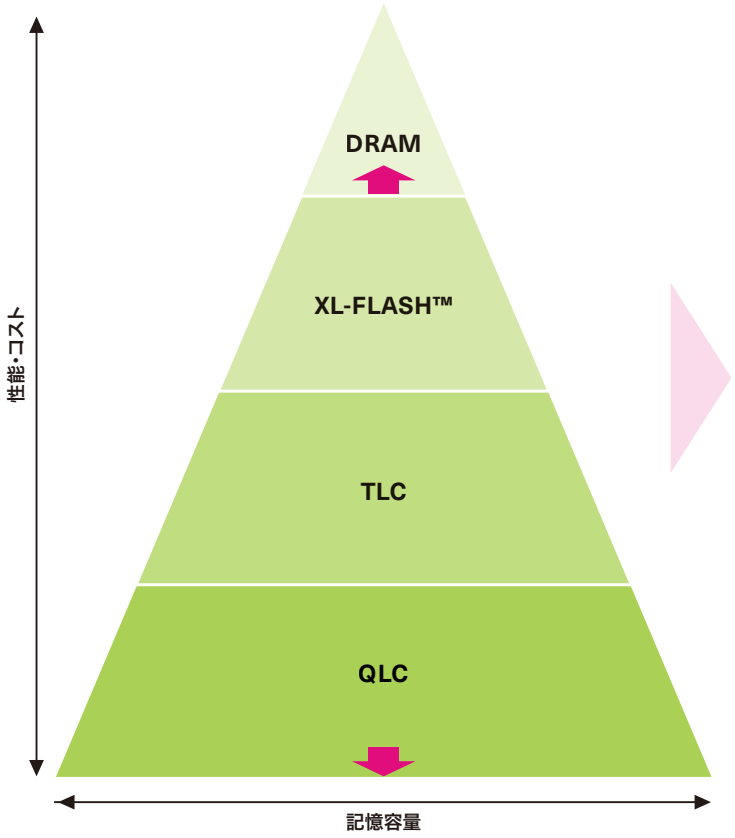
最近の研究・技術開発

キオクシアグループは、AIの発展をはじめ急速に変化するデジタル社会に不可欠となる半導体メモリの研究・技術開発に注力しています。3次元フラッシュメモリ技術「BiCS FLASH™」をはじめとして、AI・データセンターに求められる特性に合わせて、メモリ階層別の開発を進めています。その研究成果を半導体分野の主要な国際会議であるIEDM（International Electron Devices Meeting）2025、2025 Symposium on VLSI Technology & CircuitsやISSCC（International Solid-State Circuits Conference）2026などにおいて発表しました。

また、当社グループは創造的なアイデアでメモリの技術に新たな価値を生み出す、幅広い研究・技術開発にも取り組んでいます。

先端技術トピックス

AIの進化によるメモリ階層の進化に対応



OCTRAMなど 新規メモリ

新規メモリデバイス ：OCTRAMのデバイス特性改善に向けて開発を加速

高密度・低消費電力3D DRAMの実用化に向けた基盤技術として、高積層可能な酸化物半導体チャネルトランジスタ技術を開発しました。本技術を用いることで、AIサーバーやIoT製品など幅広いアプリケーションにおいて低消費電力化を実現する可能性があります。

第10/第11世代 BiCS FLASH™ デバイス開発

BiCS FLASH™デバイスの開発

現在の主力製品の次世代品として、高積層化と平面方向の縮小技術を組み合わせて「大容量・高密度」を追求し、AI推論市場に対応するデバイス開発を進めています。

Super High IOPSなど新規領域含む SSD開発強化

AIシステム向けのSSD開発強化

推論AIシステムの「低レイテンシー・高IOPS（データの読み書き）」に貢献するSuper High IOPS SSD「KIOXIA GPシリーズ」を筆頭に、AIシステム向けのSSD開発を進めています。

テクノロジー

知的財産活動

当社グループは、市場競争力の高いフラッシュメモリ・SSD製品を継続的に上市し、安定した事業の成長を実現するため、知的財産の適切な保護と有効活用に取り組んでいます。具体的には、知財ポートフォリオの強化や機密情報の管理、知財インテリジェンスの強化に注力しています。また、当社グループの顧客や競合企業の多くは海外にあるため、海外での特許出願も重視しています。

知的財産活動推進体制

当社グループでは、強い知的財産を創出し、活用すべく、研究開発部門、経営企画・法務・営業部門と知財部門が緊密にコミュニケーションをとる体制を構築しています。

特許に関する実績

キオクシア（株）は、2025年12月時点で、全世界で約15,000件の登録特許を保有しています。2025年度における日本国内での特許出願公開件数は約390件、米国での特許出願公開件数は約630件、特許登録件数は約540件となりました。

TOPICS **第15回「Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター2026」を受賞**

キオクシア（株）は、クラリベイト社（本社：英国）が保有する特許データをもとに同社が独自に知財・特許動向を分析し、世界で最も革新的な企業・機関を選出し表彰する本アワードを受賞しました。今回で5年連続の受賞となります。

本アワードは「数量」とともに「影響力」「成功率」「地理的投資」「希少性」を組み合わせた指標で評価されますが、キオクシア（株）は、このうち「成功率」「地理的投資」において特に高い評価を獲得しました。

イノベーション創出の取り組み

当社グループは、イノベーションを創出する体制、風土づくりと、産官学のさまざまなパートナーとの積極的な連携の2つの軸で、常に新たなアイデアや技術が生まれる環境を構築し、将来の事業のシーズを生み出すことを目指しています。

産学連携

国内外の大学、技術団体、研究所と共に多様な研究テーマに取り組み、社外からのアイデアを取り入れながら当社グループの研究・技術開発活動のさらなる向上につなげています。

TOPICS **BuzzCam：MIT Media Labと連携し、ストレージ技術を通じて生態研究の進展に貢献**

キオクシア（株）は、MIT Media Labとの共同研究を通じ、生態モニタリングに向けた音響・環境データの取得・活用に取り組んでいます。BuzzCamプロジェクトでは、パタゴニアで収集した大規模な音響データを基に蜂の羽音データセットを構築し、その成果がNature Scientific Data誌に掲載されました。

BuzzCamは、マイク、環境センサー、バッテリー、ソーラーパネル、データ保存用のキオクシア製のmicroSDメモリカードを備え、過酷な環境でも長期間動作できるよう設計された屋外音響デバイスで、自然環境を乱さずに生態変化を捉えるための観測基盤を提供します。

公開されたデータセットは、絶滅が懸念される在来種の保全、外来種による影響評価、生態モニタリング向け機械学習モデルの構築など、幅広い研究分野で活用が可能です。

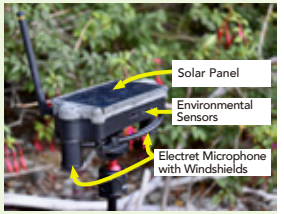


Photo Credit: Marie Kuronaga
Copyright: © MIT Media Lab

BuzzCam共同研究の紹介

次世代の半導体人材、技術人材育成

当社グループは、半導体、フラッシュメモリ業界の持続的な発展のためにさまざまな施策に取り組み、尽力しています。

キオクシア（株）は2024年に京都工芸繊維大学とクロスアポイントメント契約を締結しました。極低温環境下で動作する半導体集積回路（LSI）の設計技術に関する研究開発推進、および半導体業界での人材育成を目指しています。

また、理学・工学のさらなる学術的発展に寄与することを目的とした、日本国内の学術研究機関に所属する研究者を対象とする「奨励研究」を毎年実施しています。2026年度は「『記憶』×AI技術」を注力テーマに募集し、独創的かつ魅力的なテーマを採択して研究費を助成しています。

パートナーシップ（社会関係資本）

顧客、研究開発パートナー、調達取引先との共創



特 徴

9の国・地域で事業を展開

グローバルな市場ニーズにタイムリーに対応

顧客、研究開発パートナー、調達取引先との

強固なパートナーシップ

キオクシアグループは、顧客、研究開発パートナー、調達取引先などと強固な関係を構築しています。この強力なパートナーシップをさらに発展させ、社会ニーズを先取りした製品・サービスを実現し、高品質な製品を安定的に供給し、持続的に社会に価値を提供していくことを目指します。

顧客：世界各地のデータセンター、スマートフォン、PC分野のリーディングカンパニー

当社グループはグローバルな営業・技術サポート・サプライチェーン体制を構築し、世界各地の顧客と共に、新たな価値を創出します。

研究開発パートナー：国内外の技術団体、大学・研究機関、他企業

幅広く最先端の知見やアイデアを取り入れ、イノベーションを創出し、さらなる製品・技術の進化を目指します。

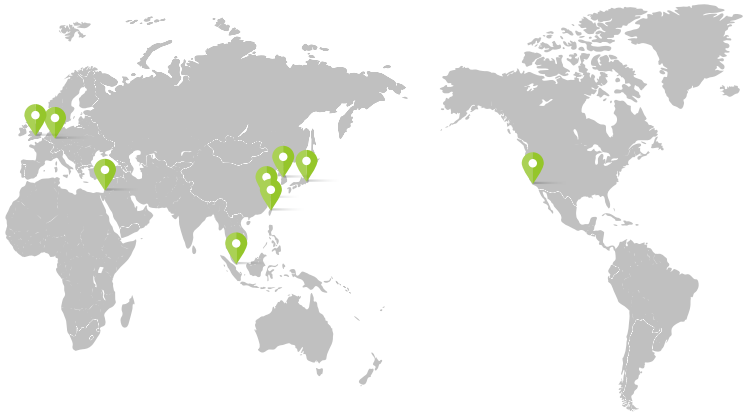
調達取引先：装置メーカー、材料メーカー、OSAT※など

調達取引先との共創で強靭なサプライチェーンを構築して高品質な製品を安定供給し、新しい製造技術の創出で競争力を強化します。

※ Outsourced Semiconductor Assembly and Test：半導体後工程受託企業

グローバル拠点

当社グループは9の国・地域に拠点を持ち、グローバルに事業を展開しています。米国、欧州、アジアに販売・顧客サポートの拠点を構え、データセンター、スマートフォン、PC分野のリーディングカンパニーと強固な関係を構築しています。



パートナーシップ

強力な顧客基盤とコラボレーション

キオクシアグループは、ハイパースケーラーなどのグローバルな大手企業とのコラボレーションにより、伸長するAI市場のニーズを先取りする製品、サービスを実現します。

顧客との共創事例

AI用途向けの大容量、高性能、低消費電力データセンターを実現する
フラッシュメモリベースのプラットフォーム構築

キオクシア（株）はデル・テクノロジーズ（株）と共に、AI用途向けに245TBのエンタープライズSSD「KIOXIA LC9シリーズ」40台を搭載したシステムを構築し、9.8ペタバイト（PB）まで拡張可能な2Uサイズのサーバーを実現しました。両社は長年にわたり、データ主導型アプリケーション向けの、拡張性の高いインフラの開発に取り組んでいます。この成果は、性能の向上、消費電力の削減、データセンターの効率最大化を図る大容量システムの推進に対する両社共通の取り組みを示すものです。

顧客との対話を通じたエンゲージメント深化:展示会でのコミュニケーション活動

当社グループは、パートナーに最新製品・サービス、技術力をご理解いただき、対話を深めるために展示会をはじめとするさまざまなイベントに出展しています。

フラッシュメモリとストレージの未来に焦点を当てた世界最大のイベント「FMS：the Future of Memory and Storage 2025」では、「AIの可能性を解き放つ」をテーマに、基調講演や、製品・技術デモを通じて当社グループのAIソリューションをアピールしました。また、生成AI向け大容量SSD「KIOXIA LC9シリーズ」が、「Most Innovative Technology部門」で「Best of Show Award」を受賞しました。

このほか、AIやデータセンター分野のリーディングカンパニーが開催する「NVIDIA GTC」をはじめ、「COMPUTEX」「Interop Tokyo」などの主要な業界イベントにも出展し、当社グループの高性能ストレージの重要な役割を強調しました。



NVIDIA GTC 2025でのKIOXIA AiSAQ™技術のライブデモ



FMS2025の「Best of Show Award」を受賞した
エンタープライズSSD「KIOXIA LC9シリーズ」

TOPICS　顧客と研究をつなぐKIOXIA Innovation Lab

「KIOXIA Innovation Lab」では、顧客がキオクシアの新製品や新技術、ソフトウェアを検証・評価できる環境を用意しています。顧客からのフィードバックを迅速かつ効果的に新製品や新技術に反映し、顧客価値、市場価値を高めていきます。

パートナーシップ

研究開発パートナーと生み出すイノベーション

学術機関や業界を超えたパートナーから社外のアイデアを取り入れ、有機的なコラボレーションでイノベーションを創出し、社会に新たな価値を提供します。

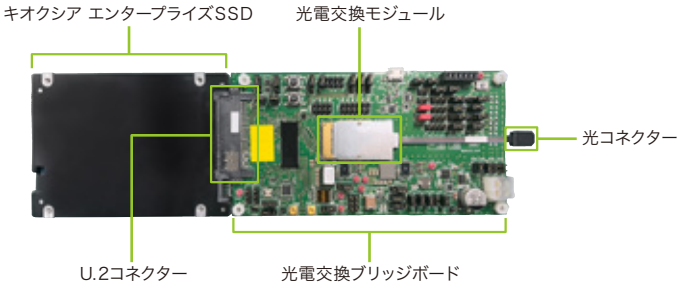
共同開発：次世代グリーンデータセンター技術開発（広帯域光SSD）

キオクシア（株）は、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の補助事業である「グリーンイノベーション基金事業／次世代デジタルインフラの構築における「次世代グリーンデータセンター技術開発」（JPNP21029）」に、富士通（株）、1FINITY（株）、アイオーコア（株）、古河ファイテルオプティカルコンポーネンツ（株）、京セラ（株）、日本電気（株）と共に取り組んでいます。各社は分担して、データ伝送を効率化する光電融合技術をはじめとした、データセンターの省エネルギー化・大容量化・低遅延化を実現する技術開発に取り組んでおり、これらの技術の適用により、研究開発開始時点のデータセンターと比較して、35%以上の省エネルギー化等の実現を目標としています。

キオクシア（株）は、光電融合技術を採用した、「広帯域SSD」の開発を担当し、PCIe® 5.0に対応するプロトタイプの動作を確認しました。

今後も次世代グリーンデータセンターの実現に向けて、生成AIをはじめとする大量のデータの高速処理を必要とする先進的なアプリケーションへの適合性を高める技術開発を進めるとともに、光電融合技術を活用したデータセンターシステムの社会実装に向けた実証試験（PoC）への適用を進めていきます。

※ PCIeはPCI-SIGの登録商標です。



産学連携（テクノロジー）▶P.39

調達取引先との共創による強靭なサプライチェーンの構築

当社グループの製品は、半導体製造装置メーカー、材料メーカー、OSATなどさまざまな分野の調達取引先とのサプライチェーンのもとに成り立っています。製品の品質向上、安定供給の実現と、地政学リスクや自然災害によるサプライチェーンへの影響の最小化のためには、調達取引先との協調が欠かせません。調達先の複線化や部品の共通化といった当社グループでの取り組みに加えて、調達取引先との相互理解の促進、信頼関係の構築に積極的に取り組み、強靭なサプライチェーンの構築を進めています。

調達取引先との対話を深める「パートナーズデイ」

キオクシア（株）は、2025年11月に100社を超える国内外の調達取引先を招いてパートナーズデイを開催しました。市場動向や当社グループの事業戦略・方針を丁寧に説明し、特に優れたパートナーを表彰しました。今後も調達取引先との対話を通じて相互理解を深め、エンゲージメントを高めてサプライチェーンのさらなる強靭化を推進します。



パートナーズデイ：事業方針説明会



製品展示ブース

人材（人的資本）

ミッション実現を支えるプロフェッショナル集団



特 徴

連結従業員数 **15,218名** （2026年3月31日時点、キオクシアグループ）	新卒採用数 **476名** （2026年4月1日入社、 キオクシア（株）および国内グループ会社）
キャリア採用者比率 **63.6%** （2025年度、対採用者数、キオクシア（株））	女性役職者数 **111名** （2026年3月31日時点、キオクシア（株）、 女性活躍推進法の規定に基づき算出）

多様な経験やスキルを持つ人材がさまざまな分野で活躍しています。
キオクシアグループの持続的な発展とミッション実現のため、
培ってきた人的資本をさらに強化します。



キオクシアホールディングス株式会社
常務執行役員
人事総務部長
沖代 恭太

多様な人材の力を結集し、人的資本を高めて持続的な成長を実現する

キオクシアグループは、「『記憶』で世界をおもしろくする」というミッションのもと、「記憶」の技術を通じて社会に新しい価値を生み出し続けることを目指しています。このミッションを実現するためには、一人ひとりの従業員の力が必要です。私たちは人材を、持続的な成長を支える基盤であり、将来にわたる価値創造の源泉であると位置づけています。

AIの急速な発展により、事業環境は大きく変化しています。AI社会に不可欠なフラッシュメモリやSSDを提供する当社グループへの期待が高まる一方で、技術人材の獲得競争は一段と激しさを増しています。このような環境変化を持続的な成長の機会に変えていくためには、ミッション・ビジョンを体現する組織と、それに共感する多様な人材がそれぞれの力を最大限に発揮できる環境づくりが必要です。当社グループは、将来の成長を支える人材の確保と育成を重要な経営課題の一つと捉えています。若年層を含む幅広い世代に半導体業界とキオクシアの魅力を伝える活動を進めるとともに、新卒採用・キャリア採用の強化、多様なバックグラウンドを持つ人材の採用に取り組んでいます。さらに、マネジメント人材の育成や、多様な人材が挑戦し、活躍する機会と環境の整備を着実に進めています。

同時に、従業員一人ひとりが安心して力を発揮できる基盤づくりにも、これまで以上に力を注いでいきます。健康と安全を第一にした健康経営の実践、職場環境の整備、エンゲージメントサーベイを通じた課題の把握と改善、そして互いを尊重し、前向きに挑戦できる風土の醸成を継続していきます。

当社グループは、人材の力を最大化することは、企業価値の向上そのものにつながる、という考えのもとに、従業員一人ひとりが自らの成長を実感し、働くことに誇りを持てる会社を目指します。そして、多様な人材の知恵と経験を結集して人的資本を高め、社会から必要とされ続ける企業として、持続的な成長を実現します。

人材

キオクシアグループの人的資本経営の考え方

キオクシアグループでは、開発、生産、販売、経営管理などのすべてのプロセスにおいてさまざまな人材が活躍しています。AIの急速な発展・普及で市場が拡大し、ニーズがさらに高度化・多様化する中、当社グループはさらなる人材の確保や育成、組織づくりによる人的資本の強化に取り組みます。当社グループは、人的資本経営方針のもとに課題を抽出し、具体的な活動に組み込み、技術革新と事業成長、「『記憶』で世界をおもしろくする」というミッションの実現を支える人材育成、組織基盤の構築を推進しています。

人的資本経営マップ

目指す姿

ミッション・ビジョンを体現する組織

「『記憶』で世界をおもしろくする」というミッションのもとに、「記憶」の技術で社会に新しい価値を生み出す製品・サービスを提供する

組織を構成する従業員像

行動指針

- 一人ひとりが夢を持ち、語ることができる
- 制約を設けず、可能性を追求する
- 柔軟な発想で自ら考え、行動する
- 多様な価値観を尊重し、協力し合う
- 常に誠実さと、透明性をもって行動する

環境認識

- AIの急速な発展・普及による市場拡大、アプリケーションの進化
- デジタル技術の高度化、多様化
- 技術人材の獲得競争の激化

課題

将来の人材確保を見据えた、若年層の半導体業界・キオクシアの認知向上

技術の高度化・多様化に対応する従業員のスキル向上、業務効率向上

価値創造を実現するための組織マネジメント力の向上

パートナーシップ構築・強化に資するグローバル人材の育成

多様な人材が活躍するための組織基盤づくり

アクション

採用活動

- 一般社会、若年層向けの半導体業界の魅力訴求、認知向上活動
- 新卒、キャリア人材の積極採用
- 多様なバックグラウンドを持つ人材の採用

人材育成・組織力

- 高度な専門性を持つ人材の育成
- 価値創造をリードするマネジメント人材の戦略的育成
- 多様な人材が活躍するための機会や環境づくり、風土醸成

企業文化

- ミッション・ビジョンに基づく行動指針の浸透

従業員が活躍するための基盤

制度・システム

- 適切な評価制度
- 業務効率向上のためのDX推進
- 柔軟な勤務制度

健康と安全

- 従業員の健康と安全の確保
- 健康経営の推進
- 傷病時に生活を支えるセーフティーネット

エンゲージメント

- エンゲージメントサーベイの実施、分析
- サーベイ結果に基づく改善策の実施

ミッション・ビジョンの実現を支える人材・組織

人材

採用活動

キオクシアグループでは、市場ニーズの高まりや技術の高度化、多様化に迅速に対応するため、多様なバックグラウンドを持つ人材の採用・育成を重要な課題の一つとして、新卒・キャリア採用（リファラル・アルムナイ採用（従業員紹介による採用・退職者の採用）を含む）を積極的に推進しています。

キオクシア（株）では、人材の育成と活用を高度化するために、教育委員会を設置しています。事業計画に基づいて年度ごとに社内の教育実績をレビューし、改善策や次年度の方針を審議、育成活動にフィードバックしています。2025年度の教育委員会では、マネジメント教育の強化やDX教育の全社展開などについて審議しました。

新卒採用、キャリア採用者数（キオクシア（株））

	2023年度	2024年度	2025年度
新卒採用者数※1	511	276	119
キャリア採用者数※2	25	63	208

※1 各年度の高卒・高専卒・大卒・大学院修了の定期採用者数（4月1日入社）　※2 各年度のキャリア採用者数

組織・育成

技術教育

当社グループは、高度化する技術ニーズに応え、将来にわたって業界をリードしていく技術者の育成に注力しています。国内グループ※の新入社員には、半導体分野に必要な素養を高める基礎研修を実施し、入社2年目以降にはより高度な専門技術講座を提供しています。また、各職場ではOJTを通じて、実践的なスキルが身につく仕組みを整備しています。さらに、技術者が自発的にキャリア形成に取り組める環境を整え、ビジネスと技術の架け橋となるジェネラリストや、異なる技術を結びつけて新たな価値を創造するプロフェッショナルを育成しています。

※ キオクシア（株）および国内グループ会社

次世代への技術の継承

当社グループには、アーキテクチャー、メモリ設計、メモリ開発など、幅広い分野で活躍するプロフェッショナルである技監が在籍しています。研究・技術開発、製品開発における高度な専門知識やノウハウの次世代への継承と、半導体技術の発展に尽力しています。

人材育成

多様性の推進

当社グループは、多様な人材の活躍が新たなアイデアの創出や課題に対するアプローチの多角化、イノベーションの創出、ひいては企業の成長と社会への価値創造につながると考えています。当社グループは多様な人材がそれぞれの個性・能力を最大限に発揮するための機会や環境づくり、風土醸成に取り組んでいます。中でも、女性の経営参画は注力すべき重要なテーマであると位置づけています。

キオクシア（株）では、女性の役職者数を2019年度の2倍にする目標を2021年度に設定し、2025年度末の時点で達成しました。2026年3月に以下のとおりさらに高い目標を定め、達成に向けてさまざまな施策を推進しています。

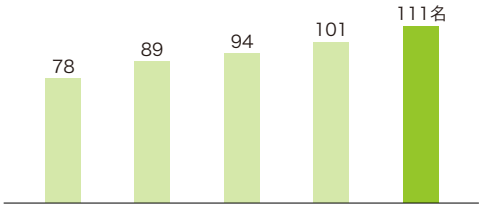
多様性の推進

- **女性役職者比率：7%（2030年度）**
- **新卒採用に占める女性の比率：事務系45%以上、技術系15%以上**

これらの目標は、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画にも定めています。

キオクシア（株）における女性役職者数・女性新卒採用の実績

女性役職者※1数の推移



※1 対象はキオクシア（株）における各年3月末時点の女性役職者（課長クラス以上）、キオクシアホールディングス（株）への出向者を含みます。2025年より、女性活躍推進法の規定に基づき算出し、出向者については、グループ内他社への出向者を含み、グループ外他社への出向者および他社からの出向者を除いています。

新卒採用者※2に占める女性の比率※3

	事務系	技術系
2022年度	53.3%	13.2%
2023年度	37.5%	8.7%
2024年度	30.4%	9.7%
2025年度	71.4%	14.3%
2026年度	59.3%	7.2%

※2 大卒・大学院修了
※3 キオクシア（株）の各年度の大卒、大学院修了の正規従業員の入社実績。キオクシアホールディングス（株）は新卒採用を行っていません。

基幹人材の育成

当社国内グループでは、新入社員から経営層まで、各段階に応じて、企業グループとしての競争力を高めるための教育を行っています。

階層別教育では、リーダーや管理職といった役割別に必要な知識やスキルを習得するための教育や、マネジメント力強化のための実践的な教育プログラムを実施しています。特に、管理職向けには、組織でのリーダーシップの発揮と業績向上につなげるための研修を継続的に実施しています。

人材

企業文化

ミッション・ビジョン、行動指針の浸透

キオクシアグループでは、従業員のミッション・ビジョンへの理解浸透を目的とした、階層別教育やeラーニングなどを定期的に実施しています。また、ミッション・ビジョンに基づき従業員一人ひとりが取り込んでいく価値観を「行動指針」として具体化し、企業文化の醸成に取り組んでいます。

国内グループでは、経営陣による従業員向けの経営方針説明会の開催や、社内向け広報ポータルでのインタビュー記事の配信などを通じて、経営層の考え、ミッション・ビジョンに対する向き合い方を従業員と共有する取り組みを進めています。

また、キオクシア（株）では、行動指針に沿った具体的な取り組みを従業員の目標管理とパフォーマンス評価に組み込んでいます。従業員一人ひとりの業務と価値観を結び付け、組織全体がミッション実現のための価値観を共有して成長していくことを目指しています。

従業員が活躍するための基盤

ワークライフバランスの推進

当社グループでは、従業員一人ひとりが自分らしく働き、高い生産性とワークライフバランスを両立できる仕組みづくり、風土の醸成に取り組んでいます。

例えばキオクシア（株）では、女性の育児休職取得率は100%を維持、男性の取得率は85%以上とすることを目標とし、時間単位の年休制度や看護休暇制度などを整え、従業員のキャリアと育児の両立を支援しています。また、育児休職取得者の懇談会を開催するなど、職場の意識向上にも取り組んでいます。2025年度は、女性の育児休職取得率は100%、男性の取得率は対象者（育児休業などを取得した男性従業員の数／配偶者が出産した男性従業員の数（正規従業員））の69.8%で、年々増加しています。


四日市工場での育児休職復職者懇談会

健康と安全

当社グループでは、従業員一人ひとりの活力や心身の健康増進が事業活動を支える重要な基盤であるとの考えのもとに、従業員や事業活動にかかわるすべての人々が安全で快適に働ける環境づくりに取り組んでいます。当社グループでは、製造・研究開発の事業場を中心に、労働安全衛生マネジメントシステム（ISO45001：2018規格）認証を取得し、このシステムに基づいて、リスクアセスメント、法令遵守状況の確認を継続的に行い、安全健康管理の可視化を進めています。また、キオクシアホールディングス（株）およびキオクシア（株）は、経済産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人認定制度」において、「健康経営優良法人（大規模法人部門）」に、2026年3月に3年連続で認定されました。

健康と安全

従業員エンゲージメント

当社グループでは、従業員を対象としたエンゲージメントサーベイを定期的に実施し、課題の把握と、解決に向けた施策に取り組んでいます。

2025年度は、当社グループ従業員約14,500人を対象に無記名方式で当社グループの優れた点・改善点、会社・仕事・上司・職場についての満足度などを問うサーベイを実施し、92%の従業員から回答を得ました。分析の結果、会社の将来像や経営判断の背景を従業員に分かりやすく伝えることを課題の一つと認識しました。施策の一つとして、経営陣が各拠点に訪問し、従業員と直接対話する集会を定期的に開催しています。今後もサーベイと分析、施策のサイクルで従業員エンゲージメントを高め、企業価値向上につなげていきます。

多様性の推進　健康と安全


経営陣と従業員の対話集会